

研究ノート Research Note

現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生」(1) 実施報告

中村華子

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 (能登学舎)
 /企画・事業部会 (hana-nakamura@staff.kanazawa-u.ac.jp)

2025年1月12日から14日に現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生」(1)を開催致しました。実は2024年秋季に予定していたのですが奥能登豪雨の影響により実施を延期していました。積雪期の開催は難しいことも考えられましたが、参加者のご協力により無事に開催することができました。ご参加のみなさま、関係各位に感謝申し上げます。

「能登の里山里海」は2011年に世界農業遺産に認定されました。三方を海に囲まれた能登半島は、海、川、平地、山地の隔たりが小さく、それらのつながりを感じやすい地域性を有します。縄文時代(以降)の遺跡が数多く分布しており、中には4,000年間継続した集落があるなど、長い期間、人々や生き物がともに暮らしてきた地域でもあります。石川県では、1970年まで本州最後の生息地として能登半島に生息していたトキを、生物多様性の保全や里山里海の利用保全の推進に向けたシンボルとし、「トキが生育する地域づくり」をスローガンに掲げています。それらの取り組みが着実に進む一方で、度重なる自然災害の影響も受けてきました。とりわけ2024年は令和6年能登半島地震、さらに9月の令和6年奥能登豪雨で大きな影響を受けました。今回の現地検討会は、2024年の地震や豪雨による地形改変、影響を現地で視察し、これからの復興、地域再生、自然再生に向けた意見交換を行うために企画致しました。表-1に主な見学地を記載します。案内の内容は学会ウェブサイトもご参照ください。

現地検討会「能登半島地震による影響と自然再生」
https://www.jsrt.jp/excursion/20250112-14_noto.html

表-1 日程と主な見学地

1月12日	三井地区の仮設団地、輪島市街地 鳳至川中流域 白米千枚田 名舟港
1月13日	鶴飼港、見附島周辺～飯田港 宝立地区の仮設団地 珠洲市外浦地域 塩田 町野川河口～町野市街地・鈴屋川 輪島市トキ生育環境整備モデル事業地
1月14日	能登町農業法人、石川県奥能登農林事務所(農地視察、意見交換)

いくつかの応急仮設住宅を見学させて頂きました。手代木純氏(金沢工業大学)から、自治体ごとに住宅の様子が様々あること、入居者の配置への工夫、そもそも立地に制限のある中、施設配置などで様々な工夫があったことなどが説明されました(写真-1, 2)。石川県では、従来よく見られるプレハブ型に加えて、木造、ユニットハウス、トレーラーハウスなどが利用されています。木造の仮設住宅については、熊本

地震をモデルにした「まちづくり型」と、みなし仮設住宅で生活する方が地元に戻る「ふるさと帰帰型」が整備されています。写真-2は公園に設置された住宅です。このように公園やオープンスペースに整備された住宅が使用され続ける場合、住宅地としての転用となる可能性があります。将来のビジョンや再整備を視野に入れた検討、柔軟な対応が望まれます。



写真-1 輪島市三井地区のまちづくり型住宅



写真-2 芝生や植え込みのある公園に整備された珠洲市見附公園の木造住宅

写真-2の住宅は、木造による応急仮設住宅です(坂茂建築設計ほか)。DLTとよばれる木材同士に木ダボを貫通させたパネルを箱型にして千鳥に積んで短期間での建設を実現しています。2024年度のウッドデザイン賞最優秀賞(国土交通大臣賞)を受賞しました。坂茂建築設計+NPO法人ボランティア・アーキテツ・ネットワーク(VAN)では能登瓦回収プロジェクトも行っています。能登瓦は現在生産されておらず、

貴重な資源として再利用することが望まれています。

写真-3 は輪島市町野町のトキ生育環境整備のモデル事業地です。上野裕氏（石川県立大学）から、トキの餌となる生き物を保全する取り組み、営巣地として想定される山林の保全に関する取り組みが説明されました。能登地域では2026年度にトキの放鳥が行われ、野生復帰事業が展開されることが決定しています。

奥能登地域で最大の流域面積を持つ町野川の流域では地震による地すべり、崖崩れなどが多数発生しました。そして、9月の奥能登豪雨で多くの土砂等が流出しました。町野川河口では隆起の影響も大きく、堆積した土砂により河口の流れが変わりました。さらに今後の変化が注目されます(写真-4)。



写真-3 輪島市町野地区のモデル事業地区



写真-4 多くの土砂が堆積している町野川河口

能登半島は、半島の先端となる珠洲市の狼煙地区を境に、日本海に面した北～西側を外浦、富山湾側を内浦と呼びます。奥能登地域外浦の海岸の背後には地すべり地形が卓越する能登山地が位置します。その地形や地質を利用して多くの棚田や塩田が作られ、営まれてきました。海岸付近で見られる特徴的な地すべり地形を観察しました。観光名所として知られる白米千枚田もそうした水田の一つです。

石川県奥能登農林総合事務所では、森林部担当者から地震や豪雨に対する取り組みを、また、企画調整室/いしかわ農業総合支援機構担当者からトキの放鳥に向けた取り組みを伺いました(写真-5)。地域の住民にはトキが生息していたことを知っている方も多そうので、トキをシンボルにした石川県の取り組みの有効性を感じました。



写真-5 奥能登農林事務所での意見交換会



写真-6 緑化に使用する地域性種苗の確保に向けた意見交換

能登町内浦地区では地域の農業法人と、緑化資材の生産可能性について意見交換を行いました(写真-6)。日本緑化工学会では、自然環境に配慮すべき地域を中心に、地域性種苗(ある地域内から採取、育成した種苗)の活用を進めています。地域の種を地域で生産し、地域の事業者が地域の緑化工事を実施することを目指した活動について、将来の可能性や方向性について意見交換を行いました。能登半島では耕作放棄地や休耕田・畑があり、さらに地震の影響で土地を離れている耕作者も多くなっています。条件によってはそのような場所を種苗の生産(採取)に活用できる可能性があります。

能登半島では復興に向け、また持続的な地域経済の構築に向け、今後も様々な取り組みが進められていくことと考えられます。学会員各位、そのほかの方々と、さらなる議論、検討を進められることを期待しています。今回ご一緒頂いた学会員の皆様、ご案内頂いた皆様ありがとうございます。再掲となりますが、改めて御礼申し上げます。

なお、本稿を皮切りに、現地検討会の参加者等による能登半島関連コラムを連載していく予定です。ご期待下さい。

参考資料

- 1) 一般社団法人日本ウッドデザイン協会. "ウッドデザイン賞 受賞作品データベース". <https://www.wooddesign.jp/db/production/year/2024/> (参照: 2025年4月17日)